

『小中学生を対象にした職業体験プログラム』

～ “普段はできない” 体験や対話をつうじて「仕事」について学ぶ～

支援団体： フューチャー イノベーション フォーラム

キャリア教育を進める上で、企業等の持つ社会資源は、子供や若者が実社会と触れる貴重な機会です。この点を踏まえて、次世代育成の観点から、企業等の団体が独自に体験の機会を提供しています。

そこで、今回は、小中学生を対象にした職業体験プログラムの実践事例をご紹介します。

「フューチャー イノベーション フォーラム (F I F)」は、2006 年の設立以来、子供たちに早い段階で働くことや仕事について考えてもらえるよう、様々な企業と協力し、職業体験を行っています。年々、協力企業が増え充実しているというプログラムの中から、夏休みに実施された二つの取組みについてご紹介します。

◆「セキュリティの最前線」(ALSOKでの職場体験)

実施日時：平成 25 年 8 月 7 日 (水) 10 時 00 分から 15 時 00 分

実施場所：ALSOK 本社 ほか 参加者：小学 5、6 年生 (19 名)

当日は小学 5、6 年生 19 名が東京都全域の警備システムを 24 時間体制で監視する基地局「東京ガードセンター」を見学し、機械警備のシステムを使った警備業務を体験しました。また、AED の操作体験や警備ロボットを見学し、社会の安全を守る警備会社の仕事について学びました。プログラムの最後には ALSOK の青山社長と対話する場もあり、参加者から「子どもの頃の夢、なりたかった職業は?」「今までやった仕事でうれしかったことは?」といった質問がありました。

様々な場面で子どもたちの驚きや感動の声が聞こえ、わずか一日の体験ながら、働くことや仕事について考える良いきっかけとなったようです。



東京ガードセンター見学



警備ロボット「リボークQ」



青山社長との直接対話



警備業務の体験「現場へ急行!」

◆中学生を対象とした「職場訪問デー」(首都高速道路株式会社 編)

実施日時：平成 25 年 8 月 20 日 (火) 13 時 00 分から 15 時 30 分

実施場所：首都高速道路株式会社 西東京管理局 参加者：中学生 (17 名)

F I F が主催し、複数の企業 (コマツ、首都高速道路株式会社、フューチャーアーキテクト株式会社) への職場訪問プログラムが実施されました。ここでは、首都高速道路株式会社での取組みについてご紹介します。

当日は中学生 17 名が首都高速道路の仕事について学び、首都高の路線状況を 24 時間 365 日リアルタイムで集約する交通管制システムや地下トンネルの空気を浄化する換気設備を見学しました。また、道路の管理に使用する特殊車両に乗り、搭載されている機能について説明を受けました。

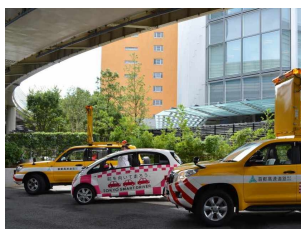
質疑応答では、技術的なことや施設にかかる経費、落下物の管理や事故の発生状況など様々な質問に対し、社員の方々が丁寧に答えていました。「今までやってきた仕事で一番楽しかったことは?」という質問には、西東京管理局の半野局長が自身の経験を踏まえ、自分で設計した道路が完成した時の喜びを話し、「皆さんも将来、仕事の中で楽しみを見つけてほしい」と語りかけました。



トンネル内の空気を浄化する機械



特殊車両に、乗って、見て、触って



交通管制システム見学